

第73号

発行日：平成27年6月17日
発行者：医学研究科広報委員会
印刷：やまと印刷株式会社

弘前大学大学院医学研究科・医学部医学科広報紙

医学部ウォーカー

1面：岩木健康増進プロジェクト報告会
糖鎖医化学講座報告会
2面：医学研究科長・医学部長寄稿
附属病院の懸案事項
3面：木村博人教授最終講義、新任のご挨拶
4面：入試専門委員会報告
5面：受賞報告、NEDOプロジェクト採択
6面：学位記伝達式、ベスト研修医賞
7面：弘前大学学術特別賞・若手論文賞受賞
8面：卒業生進路状況、SD章授与式、青森あすまし温泉紀行
9面：解部休職室長、医学科教育FD、大学院充足率について
10面：博士号を取得して
11面：外国人教員だより、関連病院勤務報告
12面：留学だより、学生だより
13面：書籍のおしらせ
14面：研究室紹介
15～16面：神経精神医学講座・腫瘍内科学講座
人事異動
題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆



岩木健康増進プロジェクト 報告会の報告

社会医学講座 教授 中路重之

本年二月二十八日に岩木地区の岩木文化センター「あそべーる」で岩木健康増進プロジェクト報告会が開催されました。岩木地区の方を含んで約百名の方に集まりました。

この報告会は本プロジェクトが開始された平成十七年度より毎年行ってきたが、今年はいよいよ十回目（年目）となったわけです。

本年度はCOI (Center Of Innovation) 元年ということもあり発表内容と会場の規模を大きくしました。その内容は以下のようでした。

- ① 高橋一平（社会医学）「岩木健康増進プロジェクトの現状と進捗状況について」
- ② 富田泰史（循環器腎臓内科学）「心臓超音波検査でわかること」
- ③ 千葉大輔（整形外科）「運動器の健康を考える…岩木健康増進プロジェクトの十年を振り返って」
- ④ 乾 明成（歯科口腔外科学）「健康長寿社会の実現に向けての口腔科学」
- ⑤ 今井 篤（泌尿器科学）「過活動膀胱について」
- ⑥ 飯野香理（産婦人科学）「婦人科研究のこれまでの成果」
- ⑦ 佐々木亮（耳鼻咽喉科学）「耳鳴と精神症状との関連について」

十年目ともなると、先生方の説明も格段に進歩したような気がします。何といっても内容がわかりやすくなりました。とくに感じるのが、わかりにくい医学用語が少なくなったということです。簡単なことのようにですが意外に難しいことだと常日頃から感じてい

ます。先生方の工夫と愛情が強く感じられました。最後には出席した皆さんから活発なご議論もいただきました。

ただ、毎年感じることがあります。それは、参加者が少ないことです。岩木健康増進プロジェクトやブライマリヘルスケアの本来的な考え方にのっとれば、より多くの住民の方と接して、情報や考え方を伝えていく必要があります。毎年

寄附講座「糖鎖医化学講座」の 報告会を終了して

医学研究科糖鎖医化学講座（寄附講座）
元特任教授 遠藤正彦

弘前大学とサンスター株式会社は、平成十九年八月に研究連携の推進に関する協定を締結し、活発に連携



事業を推進してきたところでしたが、その一環として医学研究科の中に、寄附講座・糖鎖医化学講座が、平成二十四年四月に設置され、本年三月末日に終了しました。

その結果、世界に先鞭を付けているプロテオグリカンの糖鎖工学の新しい技術開発とその応用展開、および旧生化学第一講座が発見したヒアルロン酸合成阻害剤・4-メチルウンベリフェロン（抗腫瘍剤）としての開発研究について、三年という短期間ではありましたが、一定の評価が得られるほどの成果を挙げることができました。



講演中の遠藤元特任教授

大学の研究において、論文捏造・剽窃や研究費の不正使用のため、大学における科学倫理が厳しく問われております。また、プロジェクト

クト研究、寄附講座などの外部資金が特に、費用対効果、研究効率などの点から、組上に載っておりません。そこで、報告会の公開、専門家による厳しい評価、そして報告書の迅速な公表とをもって対応いたしました。本寄附講座が、一定の評

平成26年度 弘前大学学生表彰

教育委員会 鬼島 宏
（病理生命科学講座 教授）



平成26年度弘前大学学生表彰表彰式

平成二十七年三月三日、平成二十六年度弘前大学学生表彰式が、文京地区の大学本部にて開催されました。

- 光岡明日香（一年）第57回東
- 伊藤 真子（三年）第57回東
- 濱谷 智子（三年）第56回東
- 高橋 茜（三年）第56回東
- 宇佐美真太郎（四年）第56回
- 東医体スキー男子回転優勝
- 医学部スキー部 第56回東医
- （次ページへ続く）

(前ページより)

体スキー女子総合優勝
医学部自転車競技部 第57回
東医体自転車チームタイムト
ライアル準優勝
医学部陸上部 第57回東医体
陸上女子フィールド総合優勝
千葉 大輔(院三年) 第42回
日本関節病学会にて学術集会
奨励賞

弘前大学医学部では、国
家試験合格率のみならず、
共用試験結果や臨床研修に
おける卒業生の活躍など
で、全国的にも教育レベル

が高い評価を受けるように
なっています。加えて、今
回の学生表彰者をはじめと
して課外活動等の分野でも
活躍してくれる学生が多い
のは、頼もしい限りです。
昨年度より弘前大学の学生
表彰採択が、より厳しい基
準で行われたにもかかわらず、
計十一個人・団体が被
表彰となりました(二十五
年度十件、二十四年度十三
件、二十三年七件、二十
二年度七件)。一方、今年
は研究活動において顕著な
成果を挙げた学部学生が、
一名のみの被表彰であり、
やや寂しい感があります
(二十五年度二名、二十四
年度五名)。新カリキュラ
ムにより、学部四年次に研
究室研修が組み込まれ、在
学中から研究に触れる機会
があるので、今後は一人
でも多くの学生が研究活動
で力を発揮してくれること
を願います。一方、課外活動
(クラブ活動)は全般に盛
んであり、陸上競技部・ス
キー部の団体をはじめとし
て各部活動がここ数年東医
体等で好成績を続けている
のは賞賛に値します。
今後も、学生諸君が弘前
大学医学部医学科で文武両
道を実践するとともに、よ
り一層充実した大学生活を
送ることを期待しています。

長崎 科 研 学 医
部 研 究 科 医 学

健康教育について

医学研究科長 中路重之



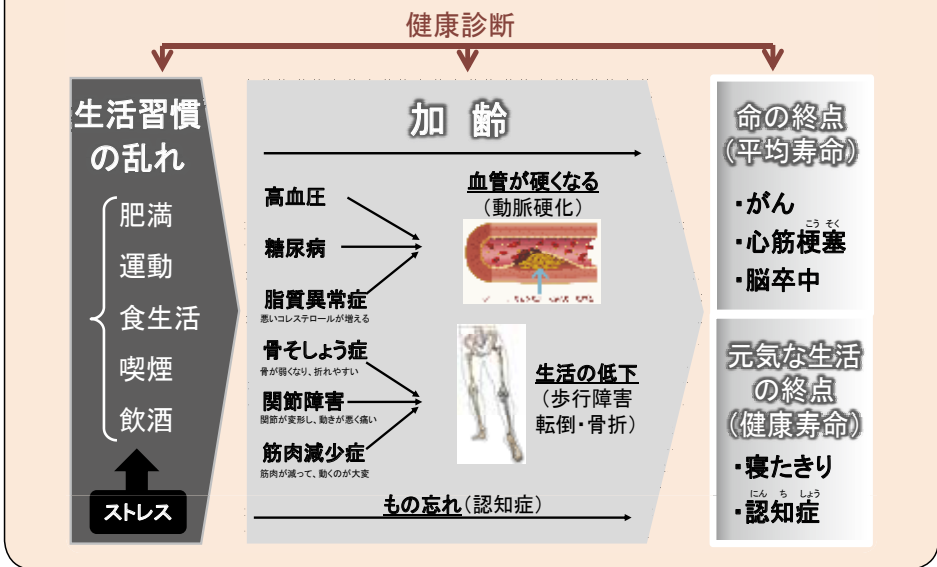
彦センター長)が、児童生
徒のこのころの問題で、社
会医学講座が「健康教育」
で参加することになる。
私の担当は健康教育であ
る。今、青森県下で盛り上
がっている「短命県返上」
のキーワードとなるのが子
供の健康教養の向上、つま
り学校における健康教育と
考えるからだ。

しかしその道のりは険し
い。一番の理由は、世のニ
ズである。健康教育の必要
性は何となく理解できる
が、今の子供たちの授業に
割り込めるほどのインパ
クトがない。

筆者が考
える健康教
育は、健康
の基本的な
概念・流れ



健康ものがたり



長から「五時間用意するの
で授業をやってくれます
か」とお話をいただいた。
渡りに船の提案に大いに感
謝した。

打ち合わせをした。六年
生二クラス分総勢約六十
名。四十五分授業の五回分
である。学校側の最初の依
頼は「大学側でやってくれ
ないか」であった。難題で
ある。まずなによりも、子
供たちの関心をそらさず
に、日常の生活(態度)に
活かす。そんなイメージで
ある。

ところが、健康教育の実
践には大きな壁があった。
学校現場も多忙なのであ
る。学校側から、実践の場
をいだけないまま時間だ
けが過ぎていった。
そんな昨年の七月、黒石
市中郷小学校の山内孝行校

附属病院の懸案事項

附属病院長 藤 哲



平成二十七年を控え、
附属病院の懸案事項特に昨
年の病院経営と四月から導
入された特別手当について
概略を説明します。

平成二十六年度の 病院運営に関して

新聞報道でご承知のよう
に、全国四十二大学四十五
国立大学病院の赤字は八十
三億円で、このうち消費税
引き上げの影響額は約七
億に上ると見られています。

特別業務手当の 新設に関して

本年四月より医師の特別
業務手当が新設されました
が、一部には『全医師の給
与削減である』といった
意見が上がっていると聞
いております。私も事務と一
緒に各教室を回って説明し
たのですが、皆さんの理解
が得られていないように思
われます。初任給調整手当
を元の正規の状態に戻した
(下げた)ということのみ
をとらえて、全ての職員の
給与が減少したと早合点し
ていると思われます。

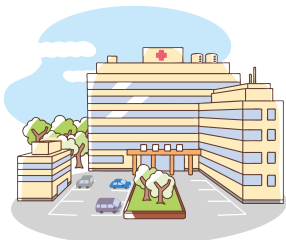
今回の手当の目的は、裁
量労働制を取り入れた際に

始まった初任給調整手当
(超過勤務手当、休日給、
夜勤手当、宿直手当及び
裁量労働制増手当を含む手
当)に対する教職員の不満
の解消です。所属する科に
よってランク付けされた初
任給調整手当に関しては、
労働対価が適切に反映され
ていないという理由で改善
が求められてきました。さ
らに同じ科内でも当直の有
無・緊急手術/処置/分娩
の有無にかかわらず同じ初
任給調整手当が支払われて
いることに異議がありました。

今回の制度変更により、
人件費総額を減らそうとは
考えていません。支給前に
行ったシミュレーションで
は現行より余計に人件費が
かかるということが示され
ています。

時間の概念がない裁量労働制
のなかで手当を考える
のは、いろいろな制約があ
り容易ではありませんで
した。福田眞作副院長をま
とめ役として外科系・内科
系医師の比較的若手医師を
代表として二年間かけて作
り上げたものです。

今後検証が必要ですが、
決して人件費を下げる為に
施行したものではないとい
うことをご理解下さい。



(次ページへ続く)

（前ページより）
の技術屋を生み出すことに
なりかねません。研究と看
護は表裏一体であり、正し
い看護を遂行するために
は、先進的な研究が必須で
あり、特に考える能力が重

就任に際してのご挨拶

保健学研究科健康支援科学領域障害保健学分野

教授 高橋

徹



平成二十七年四月一日付
けで弘前大学教授大学院保
健学研究科を拝命しまし
た。所属は「弘前大学大学
院保健学研究科健康支援科
学領域障害保健学分野」で
す。小児科学講座から異動
になって一ヶ月近く経ちま
すが、未だにこの長い名称
が覚えられず、名札を見な
がら書いています。実際は
保健学専攻の母子看護学
チームに属し、主に看護学
科の学生への小児科の講
義・実習、大学院生の研究
指導を担当するようです
（まだ十分に把握していま
せん）。

私は昭和五十七年に弘前
大学を卒業し、直ちに小児
科教室に入局しました。関
連病院、大学小児科での研
修を経て、卒業五年目から
小児科心臓グループに配属
され、それ以降、本年三月
に保健学研究科教授を定年
退官された米坂勸先生の元
で主として小児心疾患（先
天性心疾患、川崎病、不整
脈など）の診療に従事して

要です。一方、卓越した研
究を遂行するためには、豊
富な看護経験がその基盤と
して重要です。学生が本来
兼ね備えている能力を学部
教育を通じて強く引き出す
ことが、優れた看護師の輩

出につながるものと確信し
ています。また、研究成果
を国際的に発信する能力を
育成することも重要であ
り、このことについても可
能な限り努力したいと考え
ております。

きました。当初は重症先天
性心疾患患児の呼吸・循環
管理でベッドサイドに張り
着く日々（小児科病棟乳児
室にレスピレータが七ヶ八
台並び、それこそ寝ずの
番）が続きました。その後、
内科的管理・治療、外科手
術の進歩により、寝ずの番
から解放されました。近年
は先天性心疾患患者の成人
へのキャリアオーバー（成
人先天性心疾患）が新たな
問題になってきました。ま
た、胎児エコーの機器や技
術の進歩による先天性心疾
患や不整脈の出生前診断・
治療が新たな領域として加
わってきました。そのよう
な診療に明け暮れていた昨
年の十月に米坂先生と小児
科の伊藤悦朗教授から保健
学科への異動の話がありま
した。臨床一辺倒でやって
きた自分に十分な教育がで
きるのか、米坂先生の後任
が務まるのか、などと一ヶ
月ほど悩みました。

その間に思ったことは、
①医師に成り立ての頃、ひ
とりで当直をしていたとき
（いまの医療事情では許さ
れないと思います）、さり
げなく、やさしくアドバイ
スをしてくれたのは年配の
普段は厳しい看護婦さん
（当時は師ではなく婦）で
した。本当に助けていただ

入試専門委員会報告

平成27年度

AO及び前期日程入試を振り返って

医学科入試専門委員長 鬼島 宏

（病理生命科学講座 教授）

この冬前半は大雪に悩ま
されましたが、三月に入る
と一気に暖かくなり、三月
末には弘前市内でも雪が消
えて、四月七日に举行され
た入学式の後には、大学内は
すっかり春の雰囲気となり
ました。弘前公園ソメイヨ
シノの満開は四月二十三日
と早めでしたが、多くの観
光客で「さくらまつり」が
賑わいました。昨年六月の
二年度後期学士編入学第一
次選抜試験に始まりました
平成二十七年の入試に関
して、お忙しい中、試験監
督や面接委員、出題委員、
採点委員をしていただいた
先生方および学務担当をは

じめとした事務職員の方々
に改めてお礼を申し上げます。
本学医学科においては一
般入試（前期日程）の志願
者倍率がこのところ高倍率
を維持し、五年連続で十二
倍を超えました。今年（平
成二十七年）も九百名近
い志願者があり、志願者倍
率が十三・七倍の難関とな
りました（表1）。そのた
め、昨年に引き続き医学科
内の講義室等では全受験生
を収容できなくなり、弘前
高等学校のご厚意により、
同高等学校に試験会場を変
更しました。

試験は、第一次選抜を平成二
十六年十月四日・五日に行
いました。「模擬講義に関
する筆記試験」「個人面接」
による評価を行い、受験者
百二名から八十八名を合格
者とししました。第二次選抜
は十一月三日に「ケースス
タディの自学自習」「ワー
クショップ」による評価を
行い、大学入試センター試
験の結果を合わせて、最終
的に四十七名の合格者（昨
年度より五名定員増）を決
定しました。青森県が三十
六名（昨年は三十七名）、
岩手県が七名、秋田県が四
名という結果でした。残念
ながら今回は、AO入試で

実施七年目となるAO入

試は、第一次選抜を平成二

十六年十月四日・五日に行

いました。青森県出身者

が四十四名と昨年度よりも

二名減りましたが、ここ数

カッコ内は男女比

カッコ内は男女比

表 1. 志願者倍率（カッコ内は受験者倍率）

年度	AO入試	前期日程	計
22	2.55 (2.55)	8.31 (7.08)	6.11 (5.32)
23	2.20 (2.20)	12.31 (11.21)	8.46 (7.78)
24	2.70 (2.70)	13.20 (11.53)	9.20 (8.17)
25	3.03 (3.03)	13.34 (11.87)	9.49 (8.56)
26	2.10 (2.10)	13.40 (11.72)	9.18 (8.13)
27	2.17 (2.17)	13.67 (11.83)	8.85 (7.78)

募集人員：AO入試（すべて地域枠）は、平成25年までは定員40名、平成26年
は42名、平成27年は47名。前期日程の定員は、平成21年が60名（うち青森県定
着枠10名）、平成22年～平成24年が65名（定着枠15名）、平成25年が67名（定着
枠17名）、平成26年が70名（定着枠20名）、平成27年が65名（定着枠15名）。
この結果、AO入試と前期日程を合わせた定員は、平成21年100名、平成22年～
平成24年が105名、平成25年が107名、平成26年～平成27年が112名となっている。

表 2. 地域別入学者数

年度	青森県	東北 5 県	北海道	その他	計
22	46 (30/16)	14 (10/4)	5 (4/1)	40 (32/8)	105 (76/29)
23	40 (21/19)	13 (9/4)	5 (3/2)	47 (38/9)	105 (71/34)
24	41 (25/16)	12 (7/5)	4 (2/2)	48 (29/19)	105 (63/42)
25	42 (23/19)	10 (6/4)	4 (1/3)	51 (37/14)	107 (67/40)
26	46 (23/23)	15 (6/4)	2 (0/2)	49 (34/15)	112 (66/40)
27	44 (30/14)	17 (11/6)	5 (4/1)	46 (26/20)	112 (71/41)

表 3. 高校卒業後の期間別入学者数

年度	現役	1 年	2 年	3 年以上	その他
22	48 (30/18)	24 (19/5)	14 (13/1)	19 (14/5)	0
23	49 (30/19)	25 (19/6)	15 (9/6)	16 (13/3)	0
24	56 (34/22)	25 (14/11)	10 (6/4)	12 (7/5)	2 (2/0)
25	48 (23/25)	32 (23/9)	17 (12/5)	9 (8/1)	1 (1/0)
26	50 (25/25)	34 (23/11)	15 (11/4)	13 (7/6)	0
27	51 (32/19)	39 (21/18)	4 (2/2)	18 (16/2)	0

表 4. 平成27年度中に行われる入試選抜試験日程（予定）

平成27年 7月12日(日)	学士編入学（第2年次）第1次選抜（学力試験）
平成27年 8月29日(土) 8月30日(日)	学士編入学（第2年次）第2次選抜（学力試験、個人面接）
平成27年10月 3日(土) 10月 4日(日)	AO入試第1次選抜（模擬講義試験、個人面接）
平成27年11月 1日(日)	AO入試第2次選抜（ケーススタディの自学自習、ワークショップによる評価）
平成28年 1月16日(土) 1月17日(日)	大学入試センター試験
平成28年 2月25日(木) 2月26日(金)	前期日程選抜（学力試験） 前期日程選抜（集団面接、青森県定着枠個人面接）

・入試は、新入生が入学する時期で呼称されますので、平成28年度学士編入試
（第2年次）・平成28年度AO入試・平成28年度一般入試（前期日程）が実施
されます。

の北海道の合格者はいませ
んでした。AO入試では、
一昨年から受験可能な地域
が東北六県・北海道に広が
り、今後は、多くの地域か
らAO入試による合格が出
ることを期待しています。

業後の期間に関しては、現
役生・一浪生は昨年度とほ
ぼ同様の入学者数でした
（表3）。また、女子が四十
一名となり、昨年より一名
減りましたが、ここ数年は
四十名以上を維持していま
す。

今年度の入学者（AO入
試・前期日程合わせた）の
出身地域をみますと（表
2）、今年は青森県出身者
が四十四名と昨年度よりも
二名減りましたが、ここ数
年は四十名以上を維持して
います。青森県出身入学者
のうち三十六名がAO入試
ですが、前期日程でも八名
合格と健闘しました。青森
県に次ぐのは、岩手県・埼
玉県・東京都の各十名であ
り、北海道・神奈川県各五
名、秋田県四名となりま
した。出身高等学校では、
弘前高等学校十七名と健闘
し、続いて八戸高等学校の
九名、青森高等学校・三本
木高等学校の各五名となり
ました。一方、高等学校卒

弘前大学医学部医学科で
は、AO入試、一般入試（前
期日程）、二年度後期学士
編入試の三つの選抜試験が
行われています。平成二十
七年度も近々開始され、七
月十二日に学士編入試第一
次選抜試験が行われます。
最後に平成二十七年に行
われる入学選抜試験の予定
を表4としてお知らせいた
します。年を追う毎に教員
あたりの仕事量が増加して
いますが、入試業務は弘前
大学の教員として根幹をな
す仕事ですので、今年度も
先生方のご協力をよろしく
お願い申し上げます。

IASGO 2014 Travelling Fellowshipを受賞して

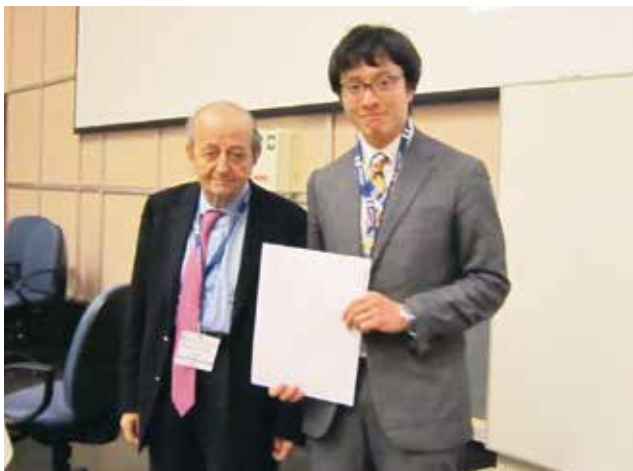
消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科 医員 小田切 理

去る平成二十六年十二月六日、オーストリアのウィーン医科大学で開催された24th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO 2014) におきまして、Travelling Fellowshipを賜ることが出来ました。同賞はIASGOが科学的に価値を有すると判断した演題に対して授与されるもので、受賞者はIASGOから旅費・宿泊費の補助を受けることができます。

演題名は「Clinical application of the 3D image using multi-slice CT to the surgery for right-sided colon」。一〇一一年から二〇一四年に当科で術前CT検査を行った大腸癌患者を対象とし右側結腸支配血管の3D再構築画像を解析したところ、これまでに他家で報告された解剖体や術中の計測データと同様の結果を示しており、3D再構築画像により正確な血管走行が把握でき、術前シミュレーションに有用である可能性が示された旨を発表しました。

oral presentationが決定した当初は戸惑うことばかりで、語学力の無さを呪う日々でした。発表当日もその感を拭い去るには至りませんでした。

実際にウィーンの街は石造りの建造物が立ち並び、旧市街には石畳も残っており、歴史の深さを肌で感じられる場所でした。最後に、ご指導いただいた全ての方々、旅の道中でお世話になったすべての方々、誠にありがとうございます。



日本消化器病学会東北支部例会 優秀演題賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院研修医
(現 青森県立中央病院研修医) 柞木田 なつみ

平成二十七年二月七日に仙台で開催された、日本消化器病学会東北支部第百九十八回例会の特別企画、「目指せ！消化器病専門医」初期研修医からの報告にて優秀演題賞を受賞することができましたので、ご報告させていただきます。

今回受賞した演題は、「UC術後に発症した壊疽性膿皮症に対しタクロリムスが有効であった一例」です。UCとは潰瘍性大腸炎のこと、びらんや潰瘍を形成する原因不明のびまん性炎症性腸疾患です。主症状は下痢と粘血便、腹痛などを呈するが、腸管合併症や腸管外合併症を伴うことがあります。治療は内科的治療を基本として寛解導入・維持を行い、重症例や内科治療抵抗性、大腸癌併発例などに対しては外科的治療が行われます。

今回の発表させていたいただいた内容は、UC術後に壊疽性膿皮症を併発し、タクロリムス内服が著効した症例報告でした。壊疽性膿皮症は炎症性腸疾患の腸管外合併症の一つで、局所治療としては第一選択がステロイド外用ですが、近年、ステロイド抵抗性のものに対してタクロリムス外用が選択されることがあります。そこで、本症例ではUC術後回腸嚢炎に合併した壊疽性膿皮症でステロイド減量にて再増悪した一例に対して、タクロリムスを用いて治療を行いました。本邦ではUC術後に合併した壊疽性膿皮症に対するタクロリムス使用の報告例は少ない、貴重な症例を経験させていただきました。ご指導いただきました福田眞作教授はじめ、消化器・血液・膠原病内科の諸先生方にはこの場をお借りして深く御礼申し上げます。加えて、研修中に創処置をご指導いただきました皮膚科の諸先生方、形成外科の諸先生方にも深く御礼申し上げます。今後とも症例一つずつに向かい合い、一人前の医師になれるよう研修に励



NEDOプロジェクトの採択について

生体構造医科学講座／神経解剖・細胞組織学講座 教授 下田 浩

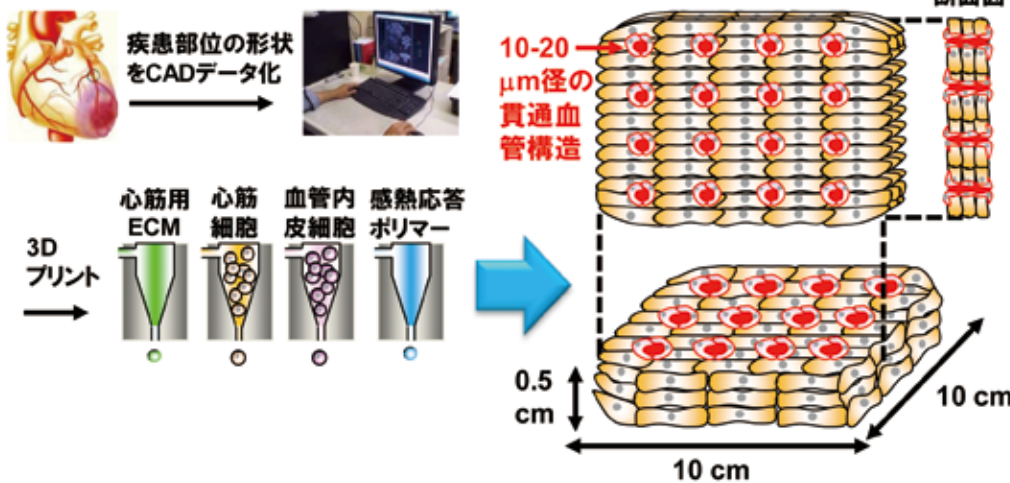
この度、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発」プロジェクトにおいて当教室が参加している大阪大学臨床医学工学研究教育センターを中心とした研究チームの申請課題「革新的な三次元精密細胞配置法による立体造形と小口径血管を有するバイオハートの研究開発」が採択されました。本研究プロジェクトでは私たちのテーマを含めて東京大学、京都大学など全国より五件が採択され、昨秋より五年間の予定で開始されました（今年度より日本医療研究開発機構AMEDに引き継がれます）。

私たちのチームは阪大、弘大、横浜市大、名大といったアカデミアとともに東レ、協和発酵といったバイオ産業、さらにインクジェットプリンタのリコーで構成されており、細胞外マトリックスのナノコーティング細胞集積技術と3Dバイオプリンティング技術を融合させることで血液供給に不可欠な貫通型血管網を有する立体心筋の開発を行っています。そして、その構造・機能の解析とともに生体応用を検証し、置換移植可能な次世代型心臓組織の実用化を目指しています。このような生体組織を構築するにはマクロからウルトラミクロレベルまでの解剖学的正確性をもった組織のデザインと構造・移植応用評価が不可欠であり、私たち解剖学教室はその任を担っています。作製された立体心筋が実際に拍動するのを目の当たりにするのはまさに胸が躍りますが、毛細血管の配置、吻合可能な小口径血管の作製、3D細胞プリンティングの自動化など、まだまだ問題は山積しています。

また現在、当教室でも同様の技術基盤をもって血管・リンパ管網を有するヒト腹膜（特願中）、真皮、集合リンパ管、静脈、胆管の開発に取り組んでいます。これらは再生医療用材料としてだけでなく、医学研究、創薬・化粧品開発における実験動物代替ヒト組織モデルとしても期待されています。

れ、がん研究や組織形成の分子メカニズム解析に応用されています。甚だ力不足の解剖学教室がこうした研究活動を行えますことは医学部を初めとした弘前大学のご理解と暖かい支えによる賜物と存じます。この場をお借りして深謝いたしますとともに、今後ともご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

疾患部位の形状に 最適なバイオハート





西澤鵬桜会理事長からお祝いの言葉

は金屏風と見事な花が添えられ、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華麗な袴姿、着物姿も加わり、厳肅な中にも華やかな雰囲気のもと、式は終了した。同日の午後七時からホテルニューキャッスルにおいて、医学部医学科第六十一回卒業記念謝恩会が開催された。外は強風が吹き雪が舞う中、今年は例年と異なり、司会の小山一茂君、福井浩之君によ

は多分これが最後であろう。弘前大学卒業という看板を背負い、全国で活躍してくれることを願うものである。



ベスト研修医賞選考会で研修医の発表に聞き入る参加者たち。



ベスト研修医賞の投票を行なう学生諸君。

は、盛会裏に終了した。

本賞の本学独自のユニークな特徴は、最終選考を学生が投票により行なうことであり、このことは教育上大きな意味を持つ。研修医と特に五年次学生は約一年にわたり日々の活動の場を共有し、いわば苦楽を共にしてきた間柄である。学生は研修医から多くを学ぶが、同時に研修医に対する格好の評価者ともなり得る。一方「Teaching is learning」という言葉があるように、研修医にとって学生を指導することは重要な学びともなっている。医師の育つ過程には、このような卒前卒後に渡って双方



ベスト研修医に贈呈されたメダル（純銀製）。

向に作用する教育が不可欠である。医師は、人と人とのきずなの中でしか育たない。これからも本賞が、本学における人と人とのきずなを強固なものとするためにお役に立てば幸いである。

平成二十七年三月二十四日午後三時三十分から基礎大講堂において、平成二十六年学位記（医学士）伝達式が、佐藤敬学長、西澤一治鵬桜会理事長ご列席のもと行われた。今回、医学部医学科の卒業生は百十五

名であり、この中の三十六名はAO入試で入学した第一期生である。多くの学生が勉学の苦勞を乗り越え、さらには国試合格の直後でもあり、会場内は笑顔の花が咲いていた。

式では中路重之医学部長が卒業生一人一人と固い握手をかわしながら、学位記の伝達を行った。会場を埋め尽くした卒業生に加えて、保護者やご来賓の方々、さらには教育指導にあたった教員も新たな門出の喜びを卒業生と共有した。伝達式の後半では、中路医学部長からご挨拶があり、医師とはやりがいのある職業であり、世の中の期待が大きいこと、また、健康でいることの重要性を強調された。西澤鵬桜会理事長からは、同窓会の輪は全国に広がっていることなどのご紹介があった。会場には金屏風と見事な花が添えられ、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華麗な袴姿、着物姿も加わり、厳肅な中にも華やかな雰囲気のもと、式は終了した。同日の午後七時からホテルニューキャッスルにおいて、医学部医学科第六十一回卒業記念謝恩会が開催された。外は強風が吹き雪が舞う中、今年は例年と異なり、司会の小山一茂君、福井浩之君によ

平成26年度

医学科学学位記伝達式

学務委員長 若林孝一
(脳神経病理学講座 教授)



中路医学研究科長から学位記授与

平成26年度

ベスト研修医賞選考会

卒後臨床研修センター長 加藤博之



藤病院長よりベスト研修医賞を贈呈される藤岡一太郎先生。



藤病院長と共に、ベスト研修医賞、優秀研修医賞の先生方。

平成26年度弘前大学学術特別賞（遠藤賞）を受賞して

Down症候群に伴う急性巨核芽球性白血病の発症の分子機構

小児科学講座 教授 伊藤悦朗

私は昭和五十六年に弘前大学医学部を卒業し、平成十二年から弘前大学小児科を担当して来ました。専門は小児血液学です。今回の遠藤賞受賞対象になりました「Down症候群に伴う急性巨核芽球性白血病の発症の分子機構」は、これまで二十年以上にわたって、教室の仲間と一緒に続けてきました研究です。従って、この賞は土岐力講師を初めとしてこの研究に携わったグループ全員でいただいた賞であると考えています。

物の前で、深夜に本学術賞を創設された遠藤正彦前学長とよくお会いしたことを思い出します。幸運にも、一九九三年にはGATA1遺伝子の構造を明らかにすることができ（Ito, Toki et al. Nature 1993）、その後、時間ばかりでしたが、この遺伝子の変異こそがDown症に伴う急性巨核芽球性白血病（DS-AMKL）の最も重要な原因であることを明らかにすることができました。

た（Xu et al. Blood 2003）。Down症新生児の約一〇%がTAMという前白血病を発症します。TAMは自然寛解しますが、約二〇%の患者さんは生後四年以内に真の白血病であるDS-AMKLに進展します。Down症は、白血病の前段階状態から真の白血病へ進展するまでの過程を経過観察できる数少ない疾患で

す。このため、白血病発症機構を解明する上で貴重なモデルになります。東北大学の山本雅之先生や京都大学の小川誠司先生など学外の共同研究者にも恵まれ、Down症の白血病に関して、いくつかの研究成果を弘前大学から世界に発信することができました。その中でも最も重要な成果は、TAMからDS-AMKLに進展する過程で起こる遺伝子変異を明らかにすることができたことです（Yoshida Toki et al. Nature Genetics 2013）。

今では、日本で発症するほとんど全てのTAMとDS-AMKL症例の検体が弘前大学小児科に集まるようになっていきました。私たちの次の大きなゴールは、白血病を発症するTAMの患者さんを正確に予測できるようにすることです。これが可能となれば白血病予防という画期的な治療も夢ではなくなります。今回の受賞を励みにして、今後も私達の研究が白血病の患者さんの治療や予防に役立つことを願って、研究を続けていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の受賞は、小児科学教室の多くのメンバーの努力の結晶と考えています。特に、土岐力講師、照井君典准教授とテニユアトラック教員の金崎理香助教に感謝申し上げます。

平成26年度弘前大学

若手優秀論文賞を受賞して

泌尿器科 講師 畠山真吾

しかし近年、血清中の糖鎖を分離する技術から「糖鎖自動解析装置」が開発されわずか10μLの血清から糖鎖を測定することができるようになりました。そこで我々はこの装置を用い血清糖鎖の網羅的解析による腎癌の新規バイオマーカーの探索を行いました。腎癌は有効なバイオマーカーが見られていない癌の一つで、新規バイオマーカーが切望されている領域です。本研究では健康人と腎癌患者の血液を比較し腎癌患者に特異的な糖鎖変化を推定いたしました。また、腎癌患者の予後と関連する可能

性のある糖鎖も同定し、糖鎖変化が腎癌の診断や予後を予測するバイオマーカーとなりうることを報告しました。

本研究のご指導をいただきました当科の大山力教授、北海道大学の西村紳一郎教授はじめ、ご支援をいただいた多くの皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、弘前大学の糖鎖研究をいっそう発展させるため研究を進めたいと考えておりますので、今後とも引き続きご指導・ご鞭撻のほどお願いしたく存じます。

平成26年度弘前大学

若手優秀論文賞を受賞して

分子生体防御学講座 助教 丸山敦史

この度は平成二十六年年度弘前大学若手優秀論文賞に選出いただき、選考委員の先生方をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げます。紙面をお借りして、受賞論文の内容を紹介させていただきます。

受賞論文名は「Nrf2 activation is associated with Z-DNA formation in the human HO-1 promoter」(Nucleic Acids Research, 2013, Vol. 41, 5223-5234)に掲載されました。私は生体の環境ストレス応答に興味を持ち研究を進めています。現在は脊椎動物の酸化ストレス応答を司る転写因子Nrf2の転写活性化機構、中でもヘム分解酵素ヘムオキシゲナーゼ1（HO-1）の発現増強機構に焦点を当

て解析しています。HO-1はヘム分解を介して炎症制御や酸化化などの生理機能を示す、細胞保護タンパク質です。以前我々は、Nrf2依存的HO-1遺伝子発現増強において、HO-1遺伝子プロモーター領域のチミン・グアニン反復配列の重要性を報告しました。生体内DNAは主に右巻き二重らせん構造ですが、プリン塩基とピリミジン塩基が交互に並ぶ反復配列は左巻き二重らせんZDNA構造を形成すると報告があります。しかし、細胞内のHO-1遺伝子プロモーターがZDNA構造を形成するか、その構造が転写増強に関与するかは未解明でした。そこで我々はZ-DNA構造特異的に結

合する分子プローブを作製し、細胞内ZDNA構造検出とその構造の転写増強における関与を検討しました。その結果、HO-1遺伝子発現増強の際、Nrf2依存的にプロモーター領域のZDNA構造形成が増強するとともにクロマチン構造が緩み、転写が増強することとを示しました。本報告により、DNA構造変換が転写制御の一端を担うことを提唱しました。

最近我々は、ヒトHO-1遺伝子エンハンサー領域からタンパク質をコードしないノンコーディングRNA（ncRNA）がNrf2依存的に産生され、そのncRNAがHO-1遺伝子発現増強に関与することを報告しました（Nucleic Acids Research, 2014, Vol. 42, 13599-13614）。

今後は、これらの知見をさらに深く追求し、転写制御の新たな機構を見出したいと考えています。

最後に、分子生体防御学講座の皆様、そして実験等でお世話になっております諸先生方に心から感謝申し上げます。今後とも御指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



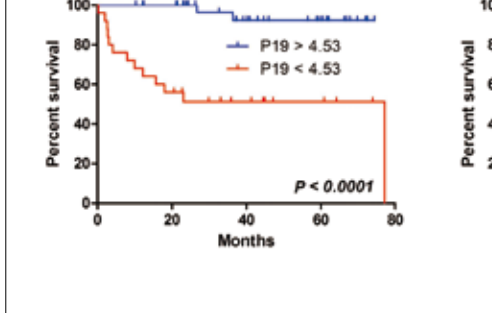
私が始めたのは、米国留学から帰国しました一九九〇年です。私の前任者の横山教授のもとで、土岐先生と二人で血球分化の分子機構についての研究にとりかかりました。まだ実績もなく十分な研究費もありませんでした。が、新設されたばかりの遺伝子工学部門の実験室を使わせていただき、夢中で研究に打ち込むことができました。当時、遺伝子工学部門の建

た。この度は「平成二十六年年度弘前大学若手優秀論文賞」を賜り誠にありがとうございます。ご選考いただいた委員会の諸先生、並びに論文作成にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回、賞を賜りました論文は「Serum N-glycan alteration associated with renal cell carcinoma detected by high throughput glycan analysis」というタイトルです。我々の教室はポストゲノム研究の柱の一つとなっている「糖鎖」に関する研究を行っており、糖鎖はよく「細胞の表面に生えている毛のような分子」と称されます。この「毛」が細胞外コミュニケーションに重要な働きをし、癌化に伴い糖鎖が変化することも知られていました。しかし、糖鎖は名のとおり「単糖」が複数連結して立体構造をもつ鎖を形成するため解析が容易ではありませんでした。さらにその変化を血液検査で検討することは大変困難でした。

2014, Vol. 42, 13599-13614）。今後は、これらの知見をさらに深く追求し、転写制御の新たな機構を見出したいと考えています。

最後に、分子生体防御学講座の皆様、そして実験等でお世話になっております諸先生方に心から感謝申し上げます。今後とも御指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



生命予後

第109回医師国家試験結果 ならびに 平成26年度卒業生進路状況

学務副委員長 袴田 健一
(消化器外科学講座 教授)

第百九回医師国家試験の受験者総数は、医学部定員数の増加を反映して、初めて九千人の万台を越えました。全体の合格率は九一・二％(新卒九四・五％)。

弘前大学の合格率は、新卒九三・九％(二〇八/一一五)、全体九二・七％と、ほぼ全国並みでした。合格された皆さんに心からお祝い申し上げます。

さて、国家試験の出題内容がより実践的なものに変化してきていると言われていています。そのような中で新卒者の合格率が一〇〇％の国立大学が四校(千葉、金沢、浜松、鳥取)ありました。十分な対策を講じた成果だと思えます。四年次のC B T 試験時までに基礎的な知識を修得し、その後の臨床実習の実践的環境の中で病態理解力を高めるなど、長期的な視点に立った国家試験対策が求められています。

次に、卒後の進路についてご報告します(表参照)。本年度の大きな特徴は、青森県内で研修を開始する卒業生が、全体の半数を越えたことです(五十九名、

五一・三％)。以下、東京都内一二・二％、青森県以外の東北地方、関東地方が七％台、次いで北海道、中部、近畿以西と続きます。地域定着卒業生の経年的

な増加に伴い、青森県内の初期研修医の増加傾向は来年度以降一層高まるものと予想されます。既に、募集定員数を応募者数が上回る医療機関も多くあり、研修病院の選定も競争の時代に入ったと言つてよいでしょう。

今回の卒業生は、平成二十九年度から導入される新・専門医制度の第一期生となります。従前の専門医とは異なり、第三者機関により認定される、半ば国家資格的な専門医となります。しかも、十九ある基本領域の専門医のいずれか一つを選択しなければならなりません。この秋から各専門医プログラムの受付と審査が始まる予定です。是非、新・専門医制度の整備の動向にも注視いただきたいと思います。

増加に伴い、青森県内の初期研修医の増加傾向は来年度以降一層高まるものと予想されます。既に、募集定員数を応募者数が上回る医療機関も多くあり、研修病院の選定も競争の時代に入ったと言つてよいでしょう。

H21～H26 卒業生進路状況												
	H21年度卒業生進路		H22年度卒業生進路		H23年度卒業生進路		H24年度卒業生進路		H25年度卒業生進路		H26年度卒業生進路	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
青森県	40	41.2%	31	34.4%	36	37.1%	41	38.3%	46	41.8%	59	51.3%
北海道	6	6.2%	8	8.9%	8	8.2%	7	6.5%	7	6.4%	6	5.2%
青森県以外の東北地方	14	14.4%	10	11.1%	18	18.6%	16	15.0%	12	10.9%	9	7.8%
関東地方	14	14.4%	21	23.3%	12	12.4%	18	16.8%	19	17.3%	8	7.0%
東京	11	11.3%	9	10.0%	6	6.2%	5	4.7%	4	3.6%	14	12.2%
中部	2	2.1%	4	4.4%	6	6.2%	6	5.6%	8	7.3%	5	4.3%
近畿以西	5	5.2%	5	5.6%	5	5.2%	10	9.3%	7	6.4%	5	4.3%
不合格・その他	5	5.2%	2	2.2%	6	6.2%	4	3.7%	7	6.4%	9	7.8%
合 計	97	100.0%	90	100.0%	97	100.0%	107	100.0%	110	100.0%	115	100.0%
国家試験合格者	92	94.8%	88	97.8%	92	94.8%	103	96.3%	103	93.6%	108	93.9%

現在、五年次の臨床実習(B S L) は四十週である。今年度は臨床実習開始前の平成二十七年四月二日に基礎大講堂において百二十二名の五年次学生にS D 章(Student Doctor 章)授与式を行った。この授与式は加藤博之教授(総合診療医学講座)の発案で平成十七年度に始まった。なお、昨年度からC B T (Computer Based Testing) の合格基準は全国一律となり、それに合格し進級した医学生だけに全国医学部長病院長会議が発行するS D 認定証が付与されることになった。つまり、S D 章は臨床実習生の身分証であると同時に、臨床実習を開始するために必要な知識と診療技能を身に付けて



藤病院長からSD章の授与

平成27年度 S D 章授与式

学務委員長 若林 孝一
(脳神経病理学講座 教授)

授与式では五年次学生全員がB S L そのままの白衣姿で臨んだ。初めに中路重之医学部長と学務委員長の挨拶があり、次いで藤哲附属病院長の訓辞の後、五年次学生代表の奥瀬諒君に病院長からS D 章が授与された。式には学生がO S C E でお世話になった模擬患者の方々や附属病院関係者も

た証明でもある。授与式では五年次学生全員がB S L そのままの白衣姿で臨んだ。初めに中路重之医学部長と学務委員長の挨拶があり、次いで藤哲附属病院長の訓辞の後、五年次学生代表の奥瀬諒君に病院長からS D 章が授与された。式には学生がO S C E でお世話になった模擬患者の方々や附属病院関係者も

参加され、S D 章を授与される学生たちを温かく見守ってくださる姿が印象的であった。最後に奥瀬君が以下の「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を宣誓した。

「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」

臨床実習生の一人として医療の現場に参加するに際し、

1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。

2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。

3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。

4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。

5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

6. 私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。

7. 私は、私の自由意志に基づき名譽にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

なお、S D 章の裏にはこの誓いが印刷してある。これらの誓いは臨床実習だけでなく、卒業後も医師として生涯遵守すべきものである。S D 章授与式目的を理解し、五年次から始まる臨床実習に真摯に取り組んでほしいと思う。

青森 あずまし 温泉紀行

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)

三内温泉
たらポッキ温泉
出町温泉



第五回目は、青森市西部を訪れましょう。

「あおもり草子」一九八号に特集され、青森市HPでも紹介されているように、青森市は温泉銭湯東横綱とされています(西横綱は鹿兒島市)。

三内温泉(第十七湯・青森市内三内・二十一時迄)の含硫黄・ナトリウム・塩化物泉は、国内でも高い濃度を誇る温泉です。男女湯を分ける中央の壁から滝のようにかけ流しの

湯が注がれており、大きな湯船の底には多量の温泉成分が沈殿しています。鄙び系ながらインパクトある温泉です。

たらポッキ温泉(第十八湯・青森市鶴ヶ坂・二十二時迄)は、JR鶴ヶ坂駅から徒歩四分程に位置しており、奥羽本線を途中下車して立寄る価値のあるナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉の銭湯です。長き歴史を誇り、地名の由来となった鶴ヶ坂温泉が昭和末期に閉館となり、それを継ぐ形で開湯した温泉です。寂れゆく鶴ヶ坂温泉は、「青森温泉風土記」の鶴ヶ坂抄に描かれています。たらポッキ温泉の壁には、この鶴ヶ坂抄が記されており、それを読むにつけ鶴ヶ坂の情緒を感じることが出来ます。

出町温泉(第九湯・青森市西滝・二十三時迄)

は、昭和の雰囲気を残しつつ小奇麗で大きな街中の銭湯温泉です。かけ流しの単純泉で、湯船から豊富な湯が溢れています。飽きが来ないシンプルな泉質で、夜も遅くまで営業していることから、青森から弘前への帰りがけに、しばしば立ち寄りたくなります。

昭和四十五年出版の「青森温泉風土記」は、当時の情緒を伝える数多くの写真とともに紀行文が綴られている秀著です。頁を捲ると、大阪万博が開催された高度経済成長期の終盤まで、多くの風情ある温泉があったことを垣間見ることが出来ます。一方で、安定経済成長期に入るとインフラ整備や娯楽の多様化などの理由で、山間の温泉は憂き目を見ることになりました。浅瀬石川沿いの温泉に加え、今回紹介の青森市内でも歴史ある下湯温泉や田代元湯が閉館となつています。時代の波に吞まれずに、多くの特色ある温泉が次世代まであり続けてほしいと願っています。

青森県 温泉風土記



平成27年度 弘前大学医学部解剖体慰霊祭

生体構造医科学講座 教授 下 田 浩

弘前大学ならびに附属病院においてご遺体を捧げられました二百二十三柱の御霊に弔意を捧げるため、平成二十七年弘前大学医学部解剖体慰霊祭が五月八日午後一時三十分より弘前市文化センター一階大ホールで挙行されました。慰霊祭にはご遺族ならびに本学白菊会会員の方々にご臨席賜り、また各方面から多くのご来賓をお迎えし、医学科、保健学科の教職員と学生が参列してしめやかに執り行われました。式に先立ち、弘前大学医学部管弦楽団による献体者慰霊のための演奏が行われ、会場全体

が厳かな空気に包まれました。まず初めに参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。続いて、昨年から本年の慰霊祭までに医学の教育と発展のために献体されました方々のご芳名が奉読されました。そして、中路重之医学部長より祭詞が述べられましたのに引き続き、医学科三年生の糸川慧さんが学生代表として、ご献体いただきました諸霊に対する感謝とご遺族への御礼の意のこもった弔辞を捧げました。その後、中路医学部長、藤哲附属病院長、木田和幸保健学科長、医学科三年生

の中西未知さん、保健学科三年生の大久保玲美さん、奥田稔白菊会理事長による代表献花が行われ、藤附属病院長よりご参列頂きました方々への御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者全員が献花を行い、慰霊祭は滞りなく終了いたしました。

慰霊祭終了後、医学部教職員はご遺族ならびに白菊会会員の方々とともに弘前市墓地公園にある医学部納骨・埋骨施設に参拝し、献体者名簿を納めました。その後、黙祷を捧げ、医学部長、白菊会会長に続き、参列者による献花を行い、参拝式を無事終了いたしました。昨年度の慰霊祭時の雨天とは打って変わり、当日の墓地公園には青空が広がり、さわやかな風が人々の間を吹き抜けていました。参列者の方々の表情にもどこか穏やかな雰囲気を感じているように思えた午後でした。



平成26年度 医学科教育F/D

学務委員長 若 林 孝 一
(脳神経病理学講座 教授)

平成二十七年三月十八日に医学科教育F/Dを開催した。今回は、平成二十八年から実施される新たな教養教育の概要に関する説明に加え、学部教育の現状分析を学務委員長が行った。その後、入試形態別の成績や卒業後の進路に関する分析を鬼島入試専門委員長が行った。

教養教育に関しては以前から内容の検討が進められていたが、平成二十六年度に弘前大学がCOC (Center of Community) に採択されたことを受け、見直しが本格化した。各学部の代

表者からなる教育推進室会議が立ち上がり、約一年をかけて議論した内容がまとまった。その骨子は、地域に関する内容、学部横断型、キャリア教育の三点である。地域に関する内容については、青森県の歴史、特色、課題等を知るローカル科目や青森県に関する内容をテーマとしたPBL (地域学ゼミ) が導入される。また、地域学ゼミでは学部横断のクラス編成(五〇七名)がなされる。キャリア教育に関しては医学科は学部教育の中で取り組んでいくことになった。

大学院の充足率について

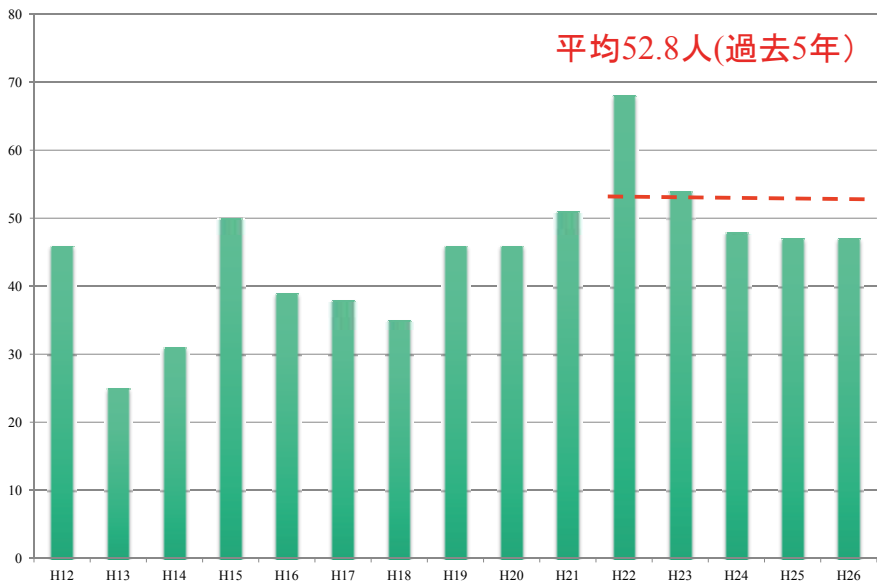
学事委員長 伊 藤 悦 朗
(小児科学講座 教授)

大学院医学研究科は、平成十九年度に部局化されてから八年が経過しました。大学院のアクティビティは多角的に評価されますが、特に大学院充足率は重要な指標の一つとして評価されます。大まかな目安として充足率九〇%以上が最低ラインとして要求されてきました。このため、大学院の入学定員を六十四名から五十名に削減し、大学院入試の複数回実施、秋期入学の導入、中国医科大学からの学生の受け入れ、基礎医学講座の大学院生に対する奨学金制度の創設など多くの取り組みを行ってきました。さらに、平成二十年度からは、指導教授が許可した場合は、臨床研修二年目からの大学院入学も可能にしました。また、大学院のアクティビティを高めるために、大学院の質の向上にも同時に取り組みできました。平成十九年度から、学位論文として提出される論文は査読制のある雑誌に採択されていることを義務づけました。一方、優れた研究業績を挙げた学生は、通常の就業年限四年を三年または三年半に短縮して修了することができ、研究

に対する意欲と質の向上を目指しています。平成二十六年度は、五名(二年短縮が二名、半年短縮が三名)がこの制度を利用して学位を取得しました。これまでに修業年限短縮により三十八名が修了しています。このような様々な取り組みの成果により、平成二十八年度までの充足率は平均六〇%前後でしたが、平成十九年度から定員の減少と入学者の増加により、

充足率が次第に上昇し、平成二十年度には一〇〇%に達しました。過去五年間の平均入学人数は定員五十名に対して五二・八名となっています(図)。なお、平成二十七年入学の学生は、現在のところ四十二名です。充足率九〇%以上を満たすためにはまだ三名以上の秋期入学が必要ですが、大学院を希望される方はぜひ秋期入試を受験されるようにお願いいたします。

大学院の入学者数



博士号を取得して

母校弘前大学に心からの感謝

社会医学講座 山 本 博



三月に大学院を修了しました日本体育大学の山本博です。

七年前に、旧知の講堂学舎の北田典子さん（柔道競技ソウルオリンピック銅メダリスト）から、弘前大学のことを聞かされました。

「弘前大学医学部では、スポーツ分野の人間でもまったく分け隔てなく指導が受けられる」と。その北田さんに中路教授を紹介してもらい、六年間（研究生、大学院）のおつき合いが始まりました。

一番の悩みは弘前大学行きの時間が簡単には取れないことでした。私は日本体育大学の教員で、同大学のアーチェリー部にも関わっています。加えて私自身がアーチェリーの現役選手でもあります。

県外の大学院生・研究生のために、東京で集中講義が行われました。年に二回土日を使いますから合計四日間、社会医学の先生方がそのために上京されます。

博士論文の初期の指導は、入学時に社会医学講座の准教授で、その後名城大

学に移られた梅田孝教授にお願いしました。私の学位論文のタイトルは「アーチェリーの試合が選手の身体的・精神的コンディションに与える影響…血液生化学検査値及びPOMSからの検討」でした。

修了予定者がほぼ全員弘前に集合していました。そこで、最後の提出書類を作成しました。高橋准教授、沢田かほり先生はじめその他の教室の先生方も勢ぞろいしておられました。聞けば高橋先生は年末年始の九連休をすべて大学院のために費やされたそうです。高橋先生は教室の働き頭で、大学院生の指導のほかに、

講義、COIプロジェクト、岩木健康増進プロジェクト、それに青森県の短命返上活動の中心人物でもあります。研究科長の公務で多忙の中路教授の補佐もしておられます。ほとんどの週末には大学院生が弘前大学にお邪魔するのですから、年中ほとんど休みがないということになります。

医学部の先生は診療で大変お忙しいと聞いて言いましたが、想像以上でした。そのような中で、スポーツと医学の壁なく勉強させていただいた弘前大学に、今はただ感謝の気持ちで一杯です。私にできることがあれば、今後とも、学外から弘前大学に何らかのご協力

大学院を修了して…新たなテーマへの出発

社会医学講座 佐藤 弘道



「運動はうつ病に効きますか？」などです。その都度、すぐに答えられない自分をもどかしく思っていました。

弘前大学大学院の研究生になったのが二〇〇九年四月。弘前大学の社会医学講座と言えば、短命県返上の講座です。中路先生から「あなたが仕事にしている健康運動こそが短命県返上のど真ん中だ」と言われ、少しは居場所があるのかと安心しました。二〇一一年に大学院に入学しました。

仕事の合間を縫って自分としてはできるだけ弘前通いをしたつもりです。年に二度の東京での集中講義も有難かったです。

入学して半年くらい経った時、学位の研究テーマを

「運動はうつ病に効きますか？」などです。その都度、すぐに答えられない自分をもどかしく思っていました。

弘前市内の幼稚園に通う年中児（満四歳）及びその母親、約八十組の親子に、六か月間私が考案した親子体操をしていただきました。

博士号を取得して

病理生命科学講座 助教 吉澤 忠 司



「博士号を取得して」という依頼原稿を頂いたとき、医学部ウオーカーは、様々な年代の方々を対象と

大変だったのはその後でした。論文作成です。中路先生をはじめ、高橋一平先生、沢田かほり先生には大変お世話になりました。しかし、論文が完成して書類を提出しても、次に学位審査のプレゼンテーションが待っていました。先生方の前で四、五回、妻の前ではそれ以上練習しました。プレゼンが終わった時の解放感は今でも忘れられません。

「博士号を取得して」という依頼原稿を頂いたとき、医学部ウオーカーは、様々な年代の方々を対象と

自身も学生の頃は、そのような時間があつたら、臨床の技術を磨いたほうがいいのかと考えていました。しかし、博士号を取

者（査読者）に納得してもらうための論理的な積み重ねが必要であり、考えぬく訓練の場にもなります。おそらく、学士入学の方は別でしようが、卒業のない医学部において、多くの方が初めてそのような経験を得ることができるようになるのではないのでしょうか。そして、一つの論文を仕上げたことが自信につながり、次につながっていくものと考えます。昨今、大学院の入学人数が減少傾向にあると聞きます。しかし、そこで得られることは大きく、このような経験は臨床、基礎を問わず、今後に生きてくると思います。博士号を取得するか迷われているならば是非一歩踏み出してはいかがでしょうか。

博士号を取得して

内分泌内科、糖尿病代謝内科、感染症科 医員 杉 山 綾



初期研修を修了した平成二十三年四月大学院博士課程に入学し、今年三月、無事に卒業することができました。大学院入学後は、まずピペットなど実験器具の使い方や細胞の育て方などから教えてもらい、本格的な実験は大学院一年の冬頃から徐々に開始しました。

「In vitro、In vivoの実験を行いました。思うような結果にならないことも多くありました。手技の問題なのか、この結果でいいのか、判断することも自分ではできませんでした。調べ

を終わらせようと必死でした。論文作成もメールでやりとりさせてもらい、指導して頂いた藤山先生には本当に迷惑ばかりかけてしまいました。幸いなことに追加実験は必要なく論文が通り、延長なく無事に四年間で博士号を取得させてもらいました。周囲に迷惑をかけながらであり、「博士号を取得した」と胸をはって

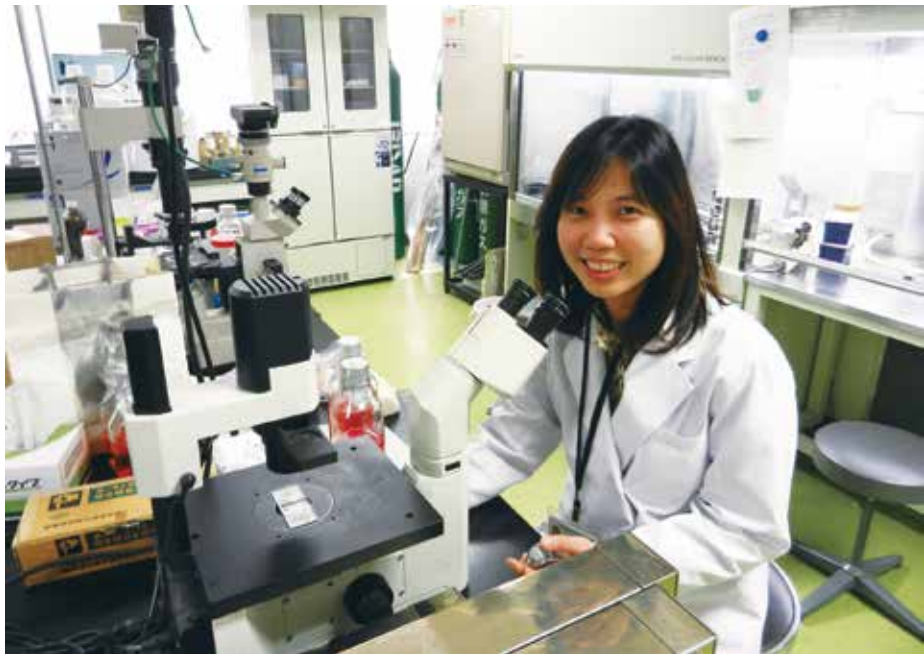
私は大学院在学中に出産を経験しました。大学院四年の時に産休に入り、里帰り出産を選択したため、それまでに実験

大学院へは、初期臨床研修では経験しなかった基礎を知ってみたい、論文を読

外国人教員だより

講師就任のご挨拶

感染生体防御学講座 講師 浅野 クリスナ



この度、感染生体防御学講座の講師になりました浅野クリスナと申します。私はタイの出身で、バンコクのマヒドン大学大学院で生化学を学んだ後、National Center for Genetic Engineering and Biotechnology (BIOTEC) で研究員として働いておりました。一九九七年に文部省国費外国人留学生として来日する機会を得て、群馬大学大学院工学研究科で学位を頂きました。この後、元の職場に戻りましたが、二〇〇四年に結婚を機に来日し、本学農学生命科学部分子生物学研

究室、医学研究科感染生体防御学講座（中根明夫教授）で研究員を勤めました。そして、二〇一〇年に助教として採用していただき、本年三月から講師として研究と教育に従事しております。現在は、毒素性ショック症候群毒素-1 (TSST-1) による黄色ブドウ球菌のオートファジー回避メカニズムを中心に研究を行っております。黄色ブドウ球菌は臨床において多剤耐性菌の出現と慢性感染で問題となっており、感染メカニズムの解明は重要な研究テーマと考えております。教育については、微生物学の講義と実習、研究室研修等を担当し、学生の皆さんとのコミュニケーションを大事にしながら取り組んでおります。

私は女性であり外国人でもあるという本学ではまだ少ない存在です。母国のタイでは、女性研究者が非常に多く、特にライフサイエンスの分野では顕著です。私が働いていた BIOTEC では研究者の六〇%以上が女性で、グループリーダークラス以上でも女性が多くを占めていました。日本の女性研究者の割合はまだ少

ないようですが、本学のよう男女共同参画推進室の取り組みは、私自身も大変心強く感じております。また、外国人であることについては、生活習慣、食べ物、言語の面などで、いまだに努力を要することが多いですが、中根教授をはじめとする研究室員の皆さんのご理解、ご指導とサポートがあつて、今に至ったと思います。お世話になっております方々に感謝しつつ、今後とも努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

関連病院勤務報告

青森労災病院 整形外科 前田 周 吾

平成二十七年四月から勤務している青森労災病院を紹介致します。青森労災病院は人口約二十四万人の八戸市の東側に位置する八戸市中核病院の一つです。八戸市の中央には八戸市立市民病院、西側には八戸赤十字病院とバランスよく配置されており、市内だけではなく青森県南から岩手県北までの広い地域の医療圏を

三つの中核病院でカバーしています。私が所属する整形外科は現在五名の常勤医と一名の嘱託医で外来・入院診療を行っています。常勤医五名中、四名が四十代と高齢化が進んでいますが、整形外科各専門分野のスペシャリストが揃っており、高齢化による体調問題を除けばバランスの取れた体制かもしれません。他科にも高齢化の波が押し寄せているような気がしますが、今年は五名の研修医が青森労災病院での初期研修を選択し、二年目研修医を含めると七名の研修医が所属しています。医局・病院には若い力が躍動し、非常に活気があふれています。知識・技術の豊富さのみではなく、人間性豊かな良医となるように熱い指導をしていきたいと思ひます。

科術後合併症で問題となる深部静脈血栓症の検査に対しても非常に協力的であり、術前・術後の下肢静脈エコー検査で異常所見があれば即座に電話で連絡してくれます。他科との協力診療

療体制も良好で、日常診療に於いて非常に恵まれた環境と言えます。整形外科は多くの病床をもっており、手術治療だけではなくその後の十分なリハビリテーション、入院での保存治療にも力を入れることができます。詳細な診療成績データを蓄積し、新しい知見が報告できるように丁寧で綿密な診療を実践していきたいと思ひます。

コラム 医学部 こぼれ話

世間知らずなので、内容がふざわしいかどうかは知らない。どうぞ、厳格な読者は、筆者をお許しください。筆者は昭和六十一年卒。当時から、他人の記憶に残らない、存在感ゼロ型人間だ。卒業同期で最も印象深いのは、宮城県石巻市出身の「大山きくべえ先生」であることは、論を待たない。理由はない。あの「声」、「存在感」、「規格外」とは、彼のためにある言葉だった。テレビにも出演。日本一有名な医学生。『61卒はどんな学生ですか?』と聞かれることがある。答えはいつも同じ。胸を張り、直立不動で答える。「きくべえ先生と卒業同期が自慢でアリマス!」その後、きくべえ先

生は宮城・松島基地の近くで「きくべえクリニック」を開業された。十年以上前、筆者の仙台勤務時代、石巻市某救急病院で、しばしば「きくべえクリニック通院中の患者さん」を診察した。妙に懐かしく、また、同期・同窓として誇らしかったのを記憶する。数年前、「きくべえ先生」は亡くなった。彼を知る者、全員が惜しんでいる。弘前市田町、天ぶら食堂「いもや」のご主人もその一人。「きくべえ先生がいけない60・61」は考えられない。今日も基礎大講堂で、隣の机にいるような気がする。臨床講堂の後ろの席に、座っているような気がする。彼が遺してくれた「言葉にならないもの」に感謝する気持ちで一杯だ。合掌。

一ヶ月の勤務で感じた青森労災病院の特徴の一つとしてパラメディカルの優秀さが挙げられます。中でも画像検査の迅速さは私が勤務した病院の中でもトップクラスで、CTはもちろんMRIも当日撮影・時間外撮影が可能で、さらに我々の要求する細かい撮影方法にも早急に対処してくれます。また整形外科





昨年十月よりイギリス、レスター大学に留学中の麻酔科工藤です。眞子さまも現在留学されており、日本でも少し知名度が上がった大学です。レスターはイギリス中部に位置し、人口三十万程度のほどよい大きさの都市です。ラグビーの名門タイガースがあり、試合の日には町がチームカラーの緑一色になるほどの賑わいを見せます。また、サッカーでもレスターは昨年からプレミアリーグに昇格したため、サッカーでも大変な賑わいを見せています。ラグビーグラウンドもサッカーグラウンドも自分が住んでいる場所から徒歩十分以内で行くことができます。そのため、苦勞をせずに最高の息抜きができます。

留学だより

麻酔科 工藤 隆 司

妻を日本に残し、単身での留学となりましたが、異国での一人暮らしは予想よりも大変でした。売っているものが日本と違いすぎて何をかうべきかわからず、食材を買うだけで一時間もかかり、銀行口座ができるまで二か月近くかかりました。その他にもトラブルはいくつかありました。それでも三か月後ぐらいからは余裕を持てるようになりました。今では同じフラットに住んでいる様々な国の医師と夜遅くまで飲みに行くこともあります。医学生と行動することも

学生だより



一年間を振り返って

一年間を振り返って

医学科二年 日山 芽 維

今年四月から、私たち二年生は本町キャンパスを中心に、専門科目を学び始めました。徐々に学習する内容の密度が濃くなり量も増えてきたことで、最初多々あり、人気店の外で一時間以上一緒に並んだり、クラブで踊ったりなど、自分も久々に学生気分を楽しんでいます。

研究に関しては、ICU

准教授のDr.Thompsonのもと、オピオイドと敗血症の関係を研究しています。研究室にはいろいろな国から研究員が集まっています。横の関係は非常に良いです。今までほとんど手術室で働いていた自分にとって、研究室生活は全く異質の環境ですが、実験手順の一つ一つには、手術とはまた違った緊張感が伴い、結果に対しても本気で喜び、落胆しています。そしてその結果に対して自分だけでなく、周囲の研究員も一緒に考えて、アドバイスをくれます。正直、言葉の壁は無視できないですが、様々な国の人と語

一年間を振り返って

医学科二年 姜 博文

入学してもう一年間が経ちました。この一年間にたくさん学んだことがあります。弘前大学に合格できたことを知っていた時の嬉しさと満足感は、一生忘れられません。私の人生にとって、この大学に入ることは大きなチャンスです。このチャンスをとらえ、掴まえてはならないということ

が、ずっと頭の中にあります。この一年間を振り返ってみると、いいことも悪いことも、たくさんありました。自分がこの一年間最も心配していたことは、進級することです。私はみんなさんと違い、外国出身です。自分は同級生の中で、一番留年しやすいと、思っています。今でも、そう思っています。ですので、私は

は重要だと思いました。他にも、臨床医学入門という科目の中で、医師に必要なことをグループディスカッションしてしっかり考え、医師のプロフェッショナルリズムについて学んだことで、これから先の医学を学ぶにあたって、自分が取るべき姿勢を改めて考えることができました。また、私は、先に述べたような授業だけでなく、部活動からも多くを学びました。先輩方の部活への取り組み方や、協力しない姿勢、先輩に示してくれるチームの中でのあり方や責任感の強さを見て、周囲の環境から吸収するよう努めたので、一年間を通して少し自分に良い変化があったのではないかと思います。

ほかの人の何倍も努力しないといけないと思いが、この一年間の間、頑張ってきました。この一年間の間で、自分の習慣や生活のペースも大きく変わったと思います。実はこの一年間で最も大変だったのは、勉強することではなく、生活上の問題です。特に細かいことに気をつけないと、まずいことになり、問題なく過ごして来ましたが、大学は成績は、あまりよくないと思いが、この一年間、医学部の授業の成績が悪かったと思っています。自分

分の努力が足りないことと、勉強する効率がよくないことが原因だと思っています。二年生になり、さらに多くの学業があります。もっと頑張らないといけません。学業以外にも、今の私は必ず一年前の私よりもっと成熟し、もっと大学生らしく見えるはず。自分の日本語能力は相当アップしました、話す方はまだ上手ではないと思いますが、聞く方は前より随分よくなって来ましたが、これからもさらに上手になっていけると思っています。これからも今までのように頑張っていきたいと思っています。

解剖学実習を振り返って

反省

医学科三年 中西 未知

解剖学実習の最終日、棺に納められた御遺体を前にして、私はこの実習に取り組ませていただけたことへの感謝とともに、ずしりとした反省を抱えています。私たちがメスを入れたのは、死という離別の時を経て、ただ安らかな眠りをと願われている方々の御身体でした。その方々から寄せられた医学教育への御期待に私たちが応えできないのであれば、学びの場として解剖を行うことは到底許されません。確かに、当初はどれほど図説を読み込んでいてもイメージすることが難かった神経

の走行や諸臓器の配置を、三か月の実習を経て解剖の流れとともに脳裏に描けるようになったことには、浅学ながら己の成長を感じることができました。その一方で、すべきことがあつたのではないかと問い返すことにも限りはありません。体腔の血管を漫然と辿る前に、もっと循環系の理解を進めておくべきだった。神経の起始をもっと正確に頭に叩き込んでおけば、あの一本も特定できなかったかもしれない。目の前の人が、一つしかない御身体を投げ出して教えて下さって

(次ページへ続く)

（前ページより）
いることのいくつもをも、自分の未熟さ故に通り返してしまっただけではないかと、とお別れを申し上げる日を迎え、私はその取り戻せない事実を噛みしめていました。

そしてそれは、私たちが今後の修学を経て医師となり、更に研鑽を積んでいくであろう道程において、繰り返し負い続けることになる重さの一端ではないかとも思い至りました。

かけがえのないひとりの人に向き合い、己の未熟さを言い訳にはできない判断を求められ、これで良いのか、良かったのかという自問自答を重ねていく。その

甘くはない重さが、医師の手に託される誰かの生の尊さであろうことも、この解剖学実習を通じて学ばせていただきました。
未だ半人前にも遠い身ではありますが、貴重な知識と経験を与えてくださった御志に値する、責任と能力を備えた医師となれるよう一層精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りして、御献体をいただきました皆様と御遺族の方々の尊い御意志と御理解に心よりの感謝を申し上げますとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

解剖学実習を終えて

医学科三年 佐々木 大地

私は解剖学実習をさせていただいたことにとっても感謝しています。解剖学実習は大変ではありましたが、実習を終えた今では将来医師になる医学生という立場への自覚を強め、精神的・体力的に鍛えられる素晴らしい機会であったと思っています。もちろん人体に対する理解を深めるという意味でも素晴らしいですが、やはり「ご遺体を自分が診る最初の患者さんだと思っ

た時はどういう人であったか、どういう病気で亡くなったか、どういう思いで私たちに協力してくれていたのかなど、哲学的なことを考えながらご遺体に向かっていたなと思います。将来青森県の中でも田舎である私の地元であるおいらせ町に帰って医療に携わるときと、きつとご遺体の方々と同年代の方々とかわっていくことになると思うので、地元に戻るという決意が揺らいでいた私にとって

解剖学実習を振り返って

医学科三年 石橋 尚 弥

まず初めに、この場をお借りして、解剖学実習のためにご献体下さった方々、そしてそのご家族の方々、実習の支援をして下さった白菊会の皆様に御礼申し上げます。

解剖学実習が終わって数か月が経った今、実習のことを改めて思い起こすと、ご献体下さった方の気持ちに答えられるようにということばかりを考えていました。そのことを踏まえて、下田先生がおっしゃっていた「ご遺体は最初の患者さん」ということを胸にとめて一つでも多くのことを学びたいと考えてやっています。

あつてチームって大切だなと改めて考えると同時に、良い仲間に出会えたことにとても感謝する気持ちが強くなりました。途中で一度気が抜けかけて油断していた時期もありましたが、何とか持ち直して解剖を乗り切れたのも、仲間の支えがあったからであると思います。この仲間たちはこれから大切にして、一緒に進級していきたいです！将来も協力できる関係でいられたらいいなと心の底から思うようになりました。

最後にありますが、このように様々な意味で経験をくれる解剖実習は一生で一度です。今大変だなと思いつつながら頑張っている二年生にもぜひ、様々なことを考えてもらいたいと思います。もう一度振り返ります。

「災害に強い病院であるために」

福田幾夫（胸部心臓血管外科 科学講座 教授）、池内淳子、鶴飼卓編、医薬ジャーナル社

東日本大震災後の手術室のアンケート調査で、救急分野の医師のみなさん、病院防災に関わる建築家や栄養士さんなど様々な分野の人たちと知遇を得ました。これをきっかけに、「災害につよい病院であるために」をまとめました。この本は東日本大震災だけでなく、災害大国であ

る我が国の病院が過去にどんな被害を被ったのかを調べてまとめたものです。東日本大震災では、太平洋沿岸の十病院が津波のため全壊しました。この中には、入院患者と病院職員全員が亡くなっているところや、津波に襲われて孤立した病院もありました。阪神淡路大震災でも、全壊した病院や周辺の火災で患者の避難を余儀なくされた病院があることはあまり知られていません。病院の災害への備えは重要だとの思いで、様々な視点から執筆しました。日本列島は戦後の地震平穏期から地震活動期に入ったとされています。火山の活

動も活発化し、地球温暖化は台風・ハリケーンを巨大化させています。病院も災害被害を受けることを考えて備えをしていかなければならない時代に入ったのではないかと思います。拙著が病院の防災の備えの一助となればと思っています。

「Dr. 中路が語る 青森県民の健康」

改訂版

中路重之（社会医学講座 教授）

平成二十五年の八月に東奥日報社から「Dr. 中路が語る青森県民の健康・改訂版」を出させていただきました。私が一員となり平素より取り組んでいる「短命返上」の基礎資料とその考え方を解説した本です。内容は改訂前とほぼ同じですが、統計の数字を新しくしたこと、短命対策について新しく追加した部分があります。

短命県返上については、私も青森県内で年間多くの講演をさせていたでいていのですが、最近話す内容がずいぶんと前進したような気がします。その理由は、短命県返上の具体的な対策がここ数年大きく前進したからにほかなりません。

以下に列記してみます。
① 青森県庁・「食命人」（新鮮で安全・安心な

旬の県産食材を活かした健康的な食事（「いのちを支える食」をつくる人）育成事業、「だし活」（県産の農林水産物を活用した「だし商品」を開発、普及する）、「健やか力検定」（児童生徒や一般人を対象とした健康検定）などの事業も活気を帯びてきました。

② 職域・みちのく銀行・青森銀行などの企業の取り組みが昨年より始まり、東北化学製品をはじめ今年には他の企業での取り組みも加速しています。

③ 教育委員会・昨年は黒石市（中郷小学校）で六年生を対象に健康教育（授業）が行われ、今年は教育学部・中南教育委員会との連携で猿賀小学校で実施予定です。

④ 市町村・今年中には約半数の市町村で健康宣言が出されます。これまで地味な存在であった健康づくりが自治体全体の取り組みとして注目されるようになってきました。

⑤ マスコミ・青森放送テレビ、東奥日報、陸奥新報、デリーー東北でも短命特集が組まれるようになりました。

⑥ 健やか力推進センター・この四月に青森県医師会付属施設として開設されました。健康リーダー（保

書籍の お知らせ



以上のように五年前では全く考えられなかった盛り上がりがあります。具体的な歩みがあるため、本に書く内容も増え、内容がにわかに現実味を帯びてきました。改訂前より充実した内容になっていると思いますので一度手に取っていただきたいと思います。

(前ページより)

している中で、黙祷の際に心の中でご遺体に語りかけるようになりました。

実習の最後の方には、患者さんの命を預かることの重さや命に向きあう覚悟といった感情が真に芽生えて

解剖学実習を終えて

医学科三年 河合由璃

二年後期の解剖実習を無事に終えられて、今はほっとしています。解剖実習を実施することができたという点において、まず初めに御献体をしてくださった方々とその御家族には感謝の気持ちで一杯です。そして、実習中、細やかな指導をしてくださった先生方や、時に相談したり、助け合ったりした仲間にもお礼を述べたいです。解剖実習中は毎日予習や復習、観察に必死であり感じていませんでしたが、今思えば本当にあつという間に終わっていました。解剖実習は私たち医学生にとって医者になるための第一歩です。医学的な知識を身につけることはもちろんのこと、様々なことを学ばせていただきました。例えば、患者さんに真摯に向き合うこと、同じ班の仲間と助け合うことの大切さを実感しました。時には他の班と情報交換を通して、人は各々違うことや観察する上で見習うべき点なども知ることができ、情報交流の重要性も感じました。これらはどれも将来医者として働く上で最も大切なことばかりでした。

きて、医者になることの一歩を本当に踏み出せたと思いました。この気持ちを礎に患者さんの気持ちを真に考えられる医師になれるように日々努力していこうと思います。

それから実習を振り返つ

で、最初のうちはどのような進めたら良いのか手探りで、予定されていた項目をなかなか終えることができなかったことを覚えていいます。しかし、回を重ねるごとに予習をしつかりとやることがスムーズに進める秘訣であることが分かり、また手技にも慣れてきたのでその点は解消されていきました。実際に目で見て、手

で触つてと五感を最大限に使つて得た知識は、ただ紙の上で得た知識の何倍もの価値があると思います。このような経験をさせていただくには御献体をしてくださる方がいらつしやらなければならず、何度感謝しても足りることはないように思います。解剖実習を終えたい私たちは実習をする前より確実に医者顔に近づいたと自負しています。立派な医者になるためにはまだまだ道のりは長いですが、解剖実習を乗り切ったという自信と感謝の気持ちの恩返しとしての責任を胸に頑張つていきたいと思ひます。

神經精神医学講座

神經精神医学講座 教授 中村和彦

精神疾患は「五大疾病」のひとつになり、職場でのうつ病や高齢化に伴う認知症の患者数が年々増加しています。精神疾患は国民に広く関わる疾患として重点的な対策が必要とされています。

を行っています。さらに、てんかん、せん妄などへのリエゾン・コンサルテーション、緩和ケア、発達障害への診断と治療などを行っています。教育面では、脳科学研究や画像診断

による疾患理解だけでなく、患者さんの認知や思考パターンへの十分な理解を踏まえた診断や治療計画など、カンファレンスを通してデイスカッションする機会を設けています。実習で

回ってくる学生に少しでも精神医学の面白さを伝えられればと思っています。

研究については、臨床薬理研究では、幅広い臨床に立脚した研究活動により成果を上げています。大学病院に加え、地域の総合病院や単科の精神病院と協力し、疫学調査から臨床遺伝学まで、精神科臨床に役立ちそうなものをテーマにしているのが特徴で、薬効の個体差を様々な角度から、分子遺伝学的な解析を用いて解明しようとしています。さらに、精神疾患患者

trations and their therapeutic effects in patients with major depressive disorder. 大学院生の石岡雅道がHyperprolactinemia during antipsychotic treatment has a risk of venous thromboembolism. 助手の工藤周平が、How often have depressed patients received psychoeducation about antidepressant treatment? The survey of 424 outpatients in Japan のト

研究室紹介



います。生物学的な研究は自閉症スペクトラムにおけるCNV解析、ミクログリア活性の変化に影響を及ぼすIGF-1についての解析を行っています。そして弘前市教委と共同で行った全小中学生を対象にしたところの健康調査の結果、抑うつが心配される割合が小学校低学年で一五・三%、高学年で二一・二%、中学生で二九・五%に上り、年を重ねるほど割合が高まる傾向がみられたことを報告し、子どもに対してこころの問題の予兆を逃さずに早期のこころの支援の重要性を明らかにしました。



2015年春 5歳児発達健診

腫瘍内科学講座

腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温

我が国ではこれまで、がんの発生臓器に関連する臓器別診療科のもとで、がん薬物療法が行われてきました。しかし、近年の分子生物学の飛躍的な進歩により、専門的な知識や技能が必要とされる薬剤が次々と臨床導入されたため、質の高いがん薬物療法を実践するためには、幅広い臓器のがん薬物療法を専門的に実施することが要求されるようになりました。そこで、



臓器横断的に薬物療法を専門に行う部署開設の機運が高まり、消化器血液内科学講座の癌化学療法グループを講座として独立させる形で平成二十年一月に大学院医学研究科腫瘍内科学講座および附属病院腫瘍内科が新設されました。この前身である癌化学療法グループは現在三沢病院指定管理者である坂田優が昭和五十年代前半から平成にかけてグループ長を務め、造血器腫瘍から消化器腫瘍を中心とした種々の固形腫瘍に対する化学療法の実践、多施設無作為比較試験による化学療法の研究、新規抗がん剤の臨床試験を積極的に行い、その基礎を確立しました。

平成二十年一月腫瘍内科学講座開設時には、東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センターから呼吸器腫瘍を専門とする西條康夫（現新潟大学教授）が初代教授として着任しました。入院病床は一病棟八階に十床、外来診察室は総合診療部・腫瘍内科外来として二室使用の形で診療開始され、現在に至っております。平成二十四年七月からは昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門から消化器腫瘍を専門とする私が二代目教授として着任し、現在に至っております。

診療科として、昨年度は百二十一名の消化器がんを中心とする固形腫瘍および六十一名の悪性リンパ腫の患者を受け入れました。扱う患者さんが全員悪性疾患ということもあり、初診時の病状説明には十分な時間をかけて患者さん自身と向き合うようにしております。臨床試験に積極的に参加し、将来における科学的根拠の創造に邁進しています。同時に、緩和医療の実践を行っております。

当科はがんを扱う各診療科が利用する附属病院外来

化学療法室および化学療法プロトコール管理の統括を行う診療科としての責務も果たしています。がん拠点病院として実施義務のあるキャンサーボードについては、専任の事務職員を確保し、放射線科、腫瘍内科、緩和ケアチームをコアメンバーにして本年三月からの試行を経て四月から週二日開催で本格稼働しました。

人事異動

●大学院医学研究科

採用（27・3・1）

附属子どものころの発達研究センター 特任助教
足立 匡基（東海学院大学）

昇任（27・3・1）

感染症体防御学講座 講師
浅野 クリスナ
消化器外科科学講座 講師
坂本 義之
（消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科 助教）

定年退職（27・3・31）

歯科口腔外科学講座 教授
木村 博人
（弘前医療福祉大学）

任期満了（27・3・31）

循環器腎臓内科学講座 准教授

長内 智宏

（保健学研究科 教授）

小児科学講座 准教授

高橋 徹

（保健学研究科 教授）

地域がん疫学講座 講師

松坂 方士

（医療情報部 准教授）

先進移植再生医学講座 助手

佐藤 天童

（集中治療部 助手）

辞職（27・3・31）

法医学講座 准教授

阪本 奈美子（杏林大学）

内分泌代謝内科学講座 准教授

松井 淳（青森市民病院）

脳神経生理学講座 講師

右田 啓介（福岡大学）

救急・災害医学講座 講師

吉田 仁

（独）国立病院機構 弘前病院

高血圧・脳卒中内科学講座 講師

阿部 直樹

（つがる総合病院）

消化器血液内科学講座 助教

太田 健

（青森県立中央病院）

呼吸器内科学講座 助教

中村 邦彦

（八戸市立市民病院）

内分泌代謝内科学講座 助教

佐藤 江里（未定）

消化器外科科学講座 助教

堤 伸二

（青森県立中央病院）

産科婦人科学講座 助教

湯澤 映

（大館市立総合病院）

病理生命科学講座 助手

清野 浩子

（放射線科 医員）

循環器腎臓内科学講座 助手

佐々木 憲一

（大館市立総合病院）

胸部心臓血管外科科学講座 助手

山内 早苗

（大阪府立母子保健総合医療センター）

眼科学講座 助手

工藤 朝香（眼科 医員）

糖鎖工学講座 助手

石岡 陽菜（未定）

先進移植再生医学講座 助手

村澤 洋美

（公益財団法人鷹揚郷腎研究所 青森病院）

採用（27・4・1）

救急・災害医学講座 教授

山村 仁（大阪市立大学）

内分泌代謝内科学講座 講師

照井 健

（内分泌内科・糖尿病代謝内科 感染症科 助教）

分子病理理学講座 助教

稲葉 渉（大学院生）

病理生命科学講座 助教

吉澤 忠司

（国立療養所松丘保養園）

消化器血液内科学講座 助教

間山 恒

（独）国立病院機構 弘前病院）

呼吸器内科学講座 助教

田中 佳人（むつ総合病院）

内分泌代謝内科学講座 助教

村上 洋（青森市民病院）

小児科学講座 助教

消化器外科学講座 助教

脇屋 太一（弘前市立病院）

泌尿器科学講座 助教

杉山 尚樹（むつ総合病院）

耳鼻咽喉科学講座 助教

西澤 尚徳

（八戸市立市民病院）

放射線科学講座 助教

掛端 伸也

（青森県立中央病院）

放射線科学講座 助教

野田 浩（鳴海病院）

産科婦人科学講座 助教

鴨井 舞衣

（産科婦人科 医員）

病態薬理学講座 助手

岡本 洋介

（アメリカ国立衛生研究所）

眼科学講座 助手

山内 宏大

（大館市立総合病院）

眼科学講座 助手

毛内 奈津姫

（眼科学講座 助手）

地域がん疫学講座 助手

工藤 和洋（市立函館病院）

昇任（27・4・1）

循環器腎臓内科学講座 准教授

富田 泰史

（循環器腎臓内科学講座 講師）

内分泌代謝内科学講座 准教授

二川原 健

（内分泌代謝内科学講座 講師）

耳鼻咽喉科学講座 准教授

佐々木 亮

（耳鼻咽喉科 講師）

高血圧・脳卒中内科学講座 准教授

木村 正臣

（循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科 講師）

循環器腎臓内科学講座 講師

山田 雅大

（循環器腎臓内科学講座 助教）

配置換（27・4・1）

循環器腎臓内科学講座 助教

西崎 史恵

（高度救命救急センター 助教）

胸部心臓血管外科科学講座 助教

青木 哉志

（高度救命救急センター 助教）

（次ページへ続く）

